

『海禅寺新聞』第32号

令和3年もあと数日となりました。皆様にとつて本年はどのような1年だったのでしょうか？ 丑年から寅年へ。牛の特徴は、『粘り強さと誠実さ』。牛は古くから酪農や農業で人々を助けてきた生き物であり、大変な作業も最後まで地道に手伝ってくれた身近な存在でした。そのことから粘り強さや誠実さが特徴とされるようになりました。新型コロナウイルス感染症と対峙してきた私たち人類にとつて、まさに牛のように少しづつ確実に感染症との付き合い方を研究し対策を打ちながら、じつと事態の通過を待つような日々でした。そして来る寅年。虎は、毛皮の模様から全身が夜空に輝く星と考えられていた存在でもあります。また『決断力と才知』の象徴としての意味もあり縁起物としても親しまれてきました。新しい年は虎のような力強さと賢さをもつて、感染症とのお付き合いも新しい局面へと進んでいきたいものですね。新しい年に向けて、引き続き皆様の息災を、日々ご祈念申し上げます。



『生きる力 Vol.107』送付

今回の特集は『「生きる力」とお大師さま — 祈りの姿、合掌 —』です。6ページから始まる合掌についての本特集は特に一読の価値があります。何気なく手を合わせる最も人間らしい姿と言われる「合掌」の所作には、広く深い意味と伝統が込められています。

合掌と言え、今年の成道会は、芙蓉園の0、1歳のお子さん達に「幸せ」について話をする機会に恵まれました。園の仏教行事で目にする子どもが合掌する様は、何とも言えない美しさと尊さがあります。※成道会：12月8日、お釈迦様が悟りを開いた日集まりの中で、小さな手を静かに合わせ、じつとこちらを見つめる小さく澄んだ瞳からは、私よりはるかに大切なことをすべて知っているような気配が感じられました。小さい人たちの日常を見ていると、例えば庭でドングリ1つ見つけただけでとても嬉しそうな表情を見せてくれます。日々出会う日常のあれこれを新鮮に受け止め、満たされ、そして幸せそうなのです。力いっぱい活動し、目の前に出された食事を美味しくそうに食べ、そしてぐっすり眠る。日々その繰り返しです。翻って私自身の日常を顧みると、些細なことでは満たされなくなっている心のありように気付かされます。この命があれば本当に足りないものなど実はさほど無いにも関わらず、周りを持ち物を比べ、色々と欲しくなり、「十分」を忘れていきます。成道会で私をじつと見つめるたくさんの純朴な瞳は「あなたはどうかのさ」と問うているようでした。今年1年を振り返り、できる限り独りよがりではない年へ向かっていきたいと思います。

『初祈願お申込み』を送付

新年恒例となっております『初祈願護摩祈禱札のお申込み』を同封いたしました。海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王の御前で勤める護摩祈禱にてお加持をした護摩札をお授けいたします。例年通り新年の2日に行いますが、昨年と同様、感染症に配慮して左記のように執り行います。

- ・マスク着用等、感染予防にご配慮いただき、体調にご留意の上お参りください。
 - ※入り口にアルコール消毒剤を用意します
 - ・お参りの方はなるべく人数を絞ってお越しください。
 - ・不動堂の換気をしながら、例年通り護摩祈禱をお勤めします。参列希望の方はあたたかい服装でおいでください。
 - ・ご祈禱後、11時よりご祈禱札をお渡しいたします(夕刻5時まで)。お申込みの方はご都合のよい時間に合わせてお寺にご参拝いただいても結構です。
 - ・ご祈禱札の郵送もいたします。(送料500円)
 - ・ご希望の方は申込書に明記ください。
 - ・終了後に開催していた新年を祝う小酒宴ですが、今回もお休みいたします。
 - ・次年こそは開催したいですね。
- こうした世相の時だからこそ、伝統に則つてより至心にご祈願申し上げます。どうぞ参拝ください。令和四年 寅(とら)の年が、よりよい年であります。すよ



日程 新年1月2日(日)

時間・ご祈禱 午前10時

※お堂にお入りの方は10時40分頃、御札をお渡しできます

- ・御札渡し 午前11時〜午後5時
- ・御札郵送 3日発送

※初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月29日(水)までに、同封の『初祈願御申込御芳名帳』にてお申込みください。ファックスでも可 Fax : 0268-26-1147

修正会

新年最初の法要である修正会。過ぎ去った旧年の罪障や穢れを懺悔し、新しい年がよりよくあるように祈念いたします。海禅寺でも年が明けた0時より、本堂・不動堂・聖天堂でお勤めいたします。

菩提寺として、各家のご先祖供養と合わせて、皆さまの心願成就、家内安全、身体健全をご祈願申し上げます。

ご参拝希望の方はお堂の外からですが、どうぞご自由にお参りください。(申込不要) 日時：新年1月1日 午前0時

※本堂で任職が各家ご先祖の回向法要を、不動堂と聖天堂では副任職が祈願法要をお勤めします。

報告 人形供養会 無事勤修

今年も恒例となっております人形供養会を去る11月23日(勤労感謝の日)にお勤めすることができました。回を重ねること37回目。ここ数年集まる人形さんの数は、やや減少傾向にありました。



本堂前に結界を張り、柴燈護摩道場を整えた上で、すべてのお人形を飾って最後のお披露目をします

しかし今年はどうしたわけか非常にたくさんのお供養依頼をいただき、相当数の人形さんたちが集まりました。また当日は大勢の参拝者の方々がお越しになり、一時境内は人であふれかえるようでした。供養者の方々の話をお聞きしていると、そのお人形一体一体に様々な物語があることがよくわかります。その役目を終えたあまたの人形達を前にすると、何とも言えない緊張感を覚えます。

ご案内のように令和に入った3年前から、修験道の秘法、柴燈護摩供をもってお人形の供養をし、祈願をこらしてあります。大切なお人形との別れを決められた経緯は人それぞれですが、お人形への感謝とこれからの自身と縁ある皆さんの幸多きことを祈る気持ちには、皆さんに共通しているものと思います。多くの方々の善良なる思いが結実してか、今年もよい護摩供養が勤められました。また人形供養会は、事前の準備及び当日の運営を大勢の方々にお支えいただいております。関係各位様のお力添えに対し、この場を借りて改めて心より感謝申し上げます。

★来年の人形供養会について

日時…令和4年11月23日(勤労感謝の日)
事前申込…2月3日(節分)以降随時

※12月・1月は年末年始の繁忙期につき、お人形の事前受付、お預かりはしておりません

報告 永代供養堂 完成

3年間から構想を練り進めてきた永代供養堂がこの度完成しました。上記の人形供養会にご参集いただいた僧侶の方々にご出仕をいただき、お堂の落慶法要も無事勤め終えました。その後、建物細部の最終施工が施され、12月20日(月)に引き渡しが完了しました。このお堂は、弘法大師空海が仰った「源遠」(げんげん)というお言葉

を理念として、多くの専門職人さん達のお力が結集されて造りあげられました。『還源』とは、『本源に還る』という意味



永代供養堂前で住職が導師をつとめ開眼落慶法要を勤修行しました。

美しい秋晴れに恵まれ、雅楽の音色と読経の法音が空高く響きました。

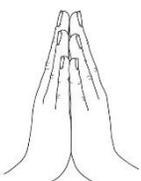
です。これは「本源的な秩序、迷いのない覚り澄ました世界に還っていく」ことであり、悟りを得ることと同義であるとされていきます。そうしたことから今生の命を閉じた後、大きな仏の世界(大自然と言ってもよいかと思えます)に溶け還って行く人の命のありようを、お堂全体で表現したものと なっています。外観は、大自然の何一つ欠けた物がない完全な姿を意味する円形で、明かり取りの窓をすべてステンドグラスにしました。正面には大自然そのものである大日如来、四方には春夏秋冬のデザインがあり、南北に陰陽を表現したダイナミックな作品を配しました。そして建物中心に納骨場所があり、大地にご遺骨を納めます。手前味噌ながら唯一無二の素晴らしい供養堂ができたと思います。

この墓地に関する使用規約はほぼ固まりつつありますが、お檀家さん以外の方、または海禅寺以外の菩提寺がある方の希望があった場合はどうするかなど、細かな部分について最終調整をしております。基本的に外部に広告を出して宣伝することはいいたしません。海禅寺にご縁のある方にお入りいただける「みんなのお墓」になれ ばと考えております。ただし年明けから個別のご相談は応じていきますので、ご関心のある方はどうぞお問い合わせください。

【永代供養堂 参加職人・業者一覧】

- ・設計…安藤建築設計工房
- ・施工…石井工務店(株)
- ・ステンドグラス作家…飯出佐恵
- ・屋根…宮島板金工業
- ・石工…林石材商会
- ・仏具…(株) 作島

〔敬称略〕



編集後記 今年も寺に飾るしめ飾りは、宮島総代様ご提供の稲わらを使い、有志の皆様の手作りしていただきました。ありがとうございます。

今年のご縁のある近隣の二ヶ寺で、晋山茶毘式が厳修されました。「晋山」(しんざん)とは新しい僧侶がその寺の住職に就任するお祝いの式。そして「茶毘式」(たびしき)とは先代住職の本葬儀式のことです。いわゆる住職の代が替わるといって、その寺院にとっては一世一代の大切な行事です。この大行事を4月25日に祥雲寺様(上田市御所)、12月16日に宗吽寺様(上田市横町)が執行されました。両寺院とも海禅寺と大変に縁が深く、そうしたことからどちらにも海禅寺住職が大導師を、副住職が会奉行(法要の取り仕切り)を勤めさせていただきますました。感染症の不安がまだまだ拭えない中ではありましたが、どちらも先代住職のご遷化という一大事があったので、檀信徒の皆様にご理解をいただきながら様々な工夫を行っていました。一般のお葬儀も、コロナ禍にあつて様々に新しい形が模索されていますが、寺院の行事にあつてもそれは同様です。そうした中でこそ、本来その行事の本質はどこにあるのかをじっくり考え、安易に省略するとういう発想ではなく、これまでの当たり前を見直しながら新しい姿を生み出していくチャンスなのかもしれません。

ところで先の二寺院の重大行事をすぐ近くでお手伝いをさせていただく中で、どちらも檀信徒の皆さんとのあたたかな関係を基礎に、その行事が一つ一つ丁寧に作りあげられていく様が実に感動的でした。我が足元を見つめ、海禅寺もかくありたいものだと思ふから感じます。引き続きどうぞお支えいただけましたら幸いです。合掌